

## 令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

(1) 名称「東京都立西高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）」

(2) 事務局の構成 総務部主任＝事務局長、総務部員1名 計2名

(3) 内部委員の構成

副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒部主任、進路部主任、総務部主任、厚生部主任、  
1学年主任、2学年主任 計9名

(4) 協議委員の構成

P T A会長、前P T A会長、学校医、近隣中学校長、町会防災関係者、地域関係機関代表  
者、地域防災担当、消防署担当、警察署担当、同窓会長 計10名

### 2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月5日（木）内部委員9名、協議委員7名

協議委員委嘱、評価委員委嘱、協議会の趣旨、学校経営計画、学習指導・生活指  
導・進路指導・学年における指導の方針、重点項目などの確認。

第2回 令和7年10月28日（火） 内部委員9名、協議委員6名

本校の現状と課題、協議委員から教育活動に対する設問・意見、学校評価アンケ  
ート項目の検討

第3回 令和8年2月5日（木） 内部委員8名、協議委員6名

今年度の教育活動のまとめ、学校評価アンケート結果の報告、学校運営に関する  
提言、本年度の協議会の反省と次年度へ向けた課題

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和7年10月28日（火） 内部委員2名、協議委員1名

学校評価の基本方針の確認、学校評価アンケート項目の検討

第2回 令和8年2月5日（木） 内部委員1名、協議委員1名

学校評価アンケート集計結果の分析・考察

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校の教育活動への理解」、「学校の実践・対応」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒 945人

・12月 保護者全員 945人

・12月 教職員 70人

(3) 主な評価項目

入学満足度、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・  
設備、環境美化、家庭との連絡・相談、キャリア教育、防災教育、体罰・暴言、教員のラ  
イフ・ワーク・バランス（働き方改革）など。

#### (4) 評価結果の概要 (学校及び校長への意見・提言内容)

##### ① 全体的傾向

今年度の学校評価も、授業の質・生徒指導・連絡体制といった学びと日常運営の核となる領域で概ね高い評価が確認できた。とりわけ、生徒の「質問に適切に回答」「連絡相談への対応」、教職員の「学習への取組」「進路情報の提供」、三者共通の「入学満足度」は安定して高水準で、学校の教育活動の基盤が確かな手応えを持って機能していることがうかがえる。

一方で、施設・環境・美化に関する認識は相対的に厳しく、生徒・保護者・教職員の三者いずれの視点から見ても改善の余地が明確になった。具体的には「美化の取組」「施設設備の満足」など、日々の学習環境の心地よさや安心感に直結する項目が伸び悩んでおり、学びの質そのものが高い評価を得ている今だからこそ、環境面の底上げが次年度の優先課題として浮かび上がっている。

##### ② 生徒

授業や学校生活の核となる領域は引き続き高評価で、「質問に適切に回答」(97.2%)、「連絡相談への対応」(95.8%)、「在り方生き方の指導」(95.3%)、「適切な生活指導」(94.6%)などは90%超の高水準を維持している。「入学満足度」も95.4%と非常に高く、学校全体の学習・生活基盤に対する生徒の信頼は堅調である。一方で、「施設設備の満足」72.0%は前年から低下しており、「学校美化の取組」19.3%、「環境美化への取組」64.7%と、美化・環境に関する満足は相対的に低位である。美化意識の高い生徒の取組を全校的な広がりにつなげるための働きかけが必要である。

##### ③ 保護者

保護者の評価は全体平均がほぼ横ばい(R6:81.2%、R7:81.1%)で安定する一方、内訳では変化が明確である。向上が目立つのは「働き方改革」(+5.4%)と「視野を広げる機会」(+3.0%)、「防災教育」(+2.6%)で、学校の方針・取組が一定程度“伝わり始めた”兆しがある。一方、「学校美化の取組」(-5.4%)、「施設設備の満足」(-5.0%)、「教材や教え方の工夫」(-2.6%)は下落し、環境・設備の“機能面”と授業の工夫の見える化に厳しさが残った。なお「在り方生き方の指導」は94%台で高位維持。総じて、学びの核は信頼を保ちつつ、快適・安全で“使える”環境整備と、日々の実践をわかりやすく保護者に伝えることが必要である。

##### ④ 教職員

教職員の自己評価は総平均で前年から小幅に上昇(86.2%から86.6%に向上)した。「防災教育の取組」(+11.5%)、「基本的な生活習慣」(+7.1%)、「進路情報の提供」(+4.6%・100%到達)が伸長した一方で、「施設設備の満足」(-5.8%)、「満足できる授業」(-5.5%)、「規範意識」(-4.9%)は低下した。授業の質を保ち続けるための組織的な取組がこれまで以上に必要であり、次年度の課題である。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価へ反映)

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

全体として、例年と同様に多くの設問で肯定的な回答が高い割合を占め、学校運営に対する評価は概ね良好であった。また、今年度は、保護者と学校がこれまで以上に連携し、西高会やPTAの活動が活発に展開されたことが、重要な成果として挙げられる。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

###### ① 学習指導について

学習指導に関しては、生徒・保護者・教職員のいずれからも概ね高い評価が得られている。しかし、さらなる学力向上を図るためには、ICTの効果的な活用に加え、対面授業の良さを

一層引き出す授業研究の推進が求められる。その実現に向けて、定期的な教科主任会の開催や教科会を基盤とした組織的・継続的な協議体制の強化が不可欠である。こうした組織的な取組を通して、教職員間の指導力向上と授業の質的改善を図る必要がある。

② 校内美化について

「環境美化への取組」は、生徒・保護者・教職員のいずれからも重要性が認識されている。今後も厚生部の「校内美化プロジェクト」などを継続するとともに、美化意識の高い生徒の取組が全校へ広がるよう、働きかけを強める必要がある。

③ 広報活動について

昨年度と実施回数は同様であったが、12月及び1月には個別相談を設け、出願に迷う受験生に対して丁寧な説明を行うなど、きめ細かな対応に努めた。今年度も、生徒による学校紹介は、受験を検討する中学生やその保護者から高い評価を得ている。一方で、学校説明会の参加者は昨年度に続き減少していることから、学校案内やホームページの内容を改善し、本校の魅力をより分かりやすく発信していくことが求められる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

激動するグローバル社会で活躍できる「大きな器」の育成を目指して、教職員の間で本校に与えられた使命を再確認するとともに、保護者・地域と連携し、学校教育の全般で組織的・計画的に教育活動を推進し、進学指導重点校として期待される成果を継続的に挙げる。

(2) 学習指導

生徒の学習意欲と基礎学力を向上させ、「思考力、判断力、表現力」の充実を目指して、ICTを活用した教材や教授法などを一層工夫し、指導力向上に努める。

(3) 特別活動

本校の校是である「文武二道」の実現を図るとともに、部活動ガイドラインに準拠し、働き方改革の推進の観点から、部活動の在り方について検討を重ね、実践する。

(4) 生活指導

遅刻などの基本的な生活習慣の確立、ヘルメット着用など自転車による交通事故防止、及び校内環境美化を学校全体で推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 6人

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそ う思わな い	そう 思わない	分からな い	無回答
4	2	0	0	0	1	3

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回（0人） 企画調整会議 0回（0人）

## 8 その他

今年度につきましても、PTA役員の皆様の御尽力により、昨年度と比較して回答率が向上したところである。来年度においても、保護者会での実施方法の工夫等を通して、引き続き更なる改善に努めていきたい。

	対象者数（人）			回答者数（人）			回答率（％）		
	生徒	保護者	教職員	生徒	保護者	教職員	生徒	保護者	教職員
今年度 全体数	945	945	70	929	652	70	98.3	69.0	100.0
昨年度 全体数	936	936	66	926	627	66	98.9	67.0	100.0